

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4572100529		
法人名	社会福祉法人豊寿会		
事業所名	グループホームきたがわ荘		
所在地	宮崎県延岡市北川町長井5565番地8 (電話) 0982-46-3107		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月14日	評価確定日	平成21年8月28日

## 【情報提供票より】 (平成21年6月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年3月22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算7.6人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年6月24日現在)

利用者人数	8名	男性 1名	女性 7名
要介護1	0	要介護2	3
要介護3	4	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.75歳	最低 74歳	最高 93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ハーティクリニック
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設施設との連携も図られ、利用者同士の交流も図られているホームである。ホームの近くには道の駅があり、機会あるごとに散歩や、そこで食事を取るなどの支援もなされている。そのため、道の駅の職員や地域住民より旬の食材の差し入れなどもあり、地域との交流も盛んに行われている。また、ホームの近くには地域住民の宅地造成も進んでおり、更なる地域との交流も期待できる。法人内・外の研修に計画的に参加しており、復命や研修報告会も行われている。ミーティング等においても日常的に管理者、職員との意見交換が行なわれ、利用者へのケアのあり方について真剣に取り組む姿勢をうかがい知ることができる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価にて、栄養摂取や水分確保の支援においてチェック表を用いての支援のあり方が課題として挙げられていたが、運営推進会議等において話し合い実行されており、介護が行いやすくなったなど職員からの声も聞かれ取り組む姿勢がうかがい知れた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で取り組み、それぞれがこれまでのケアのあり方を見直す機会として理解している。ミーティングや運営推進会議においても積極的な意見交換がなされ、評価の意義を理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームからの状況説明や行事案内が行われている。メンバーには、家族の代表、利用者代表が入るなど、ホームの運営において積極的な意見交換がなされ、課題となった項目は速やかに取り組むなど、運営推進会議をサービスの質の向上に生かした取り組みができています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りや行事案内を発送しており、主任が直筆で毎月利用者の状況を一筆加えた利用明細書を送る取り組みもなされている。来訪時には機会あるごとに話す時間を作るなど心掛けており、家族からのホームへの協力も得られている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や学校行事には積極的に参加している。近所の道の駅との行き来があり、旬の食材の差し入れ等もある。今後は、地域住民のための宅地造成や住宅建築が進んでおり、より充実した地域との連携が期待できる。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「真実」「信頼」というわかりやすく、利用者への思いを簡潔に掲げてあるが、職員の思い、地域密着としての理念を掲げることを再検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員共に理念の実践に向けて日々取り組んでおり共有されている。また、より良いケアのため管理者、職員は理念の再検討も考えている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の道の駅には、機会あるごとに行き来しなじみとなっている。地域の催し物、学校行事などにも積極的に参加しており、地域の方の協力も得られている。また、近所には地域住民の代替地の造成が進んでおり、今後のかわりが期待される。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員一人ひとりが行い、外部評価を反省の機会とし、実施する意義を十分に理解している。評価を生かし運営者、管理者、職員全員で具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市の職員、家族、利用者代表等がメンバーとなっており、活発な意見交換がなされている。また、外部評価で課題となった項目においても話し合い、改善への取り組みがなされており、サービスの向上に生かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において十分な意見交換もなされ電話連絡も随時行われている。今後は、ケアマネジャーの会議にも出席する予定もあり、行政と更なる交流を図っていく意向である。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なホーム便りの発送と、毎月の利用料請求書に主任が一筆加える等して、利用者の近況の報告がなされている。また、来訪時には積極的に話す機会を作り、随時の電話連絡も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは掃除の手伝いや、花壇の花を頂いたりと協力が得られている。運営推進会議のメンバーにもなっており、家族の意見が運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設との交流があり、利用者も職員となりなじみとなっている。年に1回ほど異動はあるが、併設施設からであり利用者への配慮がなされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画にて職員を割り振り、法人内・外の研修に参加しており、伝達講習会も行われている。県北のグループホーム連絡協議会の研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム連絡協議会において交流する機会がもたれ、勉強会も開催されておりサービスの質の向上に取り組まれている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用者が入居されるケースもあり、グループホームと相互交流があるため、なじみの関係になっておりスムーズな利用開始となっている。また、職員も徐々になじめるよう、言葉掛けに気を配っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者がゆったりと過ごせるように心掛けており、時には職員が利用者から癒される場面もあり、支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに寄り添うケアを職員は常に意識し心掛けている。言葉一つひとつを意識し、利用者の意向をくみ取るよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、機会あるごとに話を聞くように心掛け、希望を聞くようにしている。職員間では日々活発な意見交換がなされており、本人や家族の意向に即した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、家族の来訪時や電話連絡等で希望を聞くようにしており、日々のかかわりの中で利用者の状態も随時、計画作成担当者に報告し、現状に即した介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	掛かりつけ医への受診支援や理・美容への送迎支援、併設施設への外出など柔軟な支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医や協力医との連携が図られており、適切な関係が築かれ支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営者、管理者においても終末期に向けての方針がたてられている。看護体制も整っており、重度化においても早い段階より協力医、家族との話し合いがもたれている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けには十分に注意がなされ、利用者一人ひとりに応じた対応が考えられている。記録等においても保管場所が決められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援に努めている。日々の生活においても「利用者一人一役」を目標に、一人ひとりのペースに合わせた支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間の献立の予定はあるが、利用者の要望によりメニューを変更することもあり、一人ひとりの好みやペースに合わせた食事となっている。利用者のできる範囲で、皮むきなどをお願いし、職員と一緒に準備や食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	業務を改善し、一日中どの時間帯でも入浴できるシステムがとられている。利用者も毎日入浴しており、希望に沿った支援ができています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳係りやおしぼり、洗濯物たたみなど、利用者の機能に合わせ「一日一役」を目標に役割が与えられ、楽しみごと、気晴らしの支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の機能の低下もあり、外出の支援も難しくなってきたりはいるが、買い物や理・美容へ機会あるごとに行き、散歩等も行うように支援がなされている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室の鍵はかけず利用者の家族等の自由な出はりがうかがえた。夜間は安全のため、玄関は施錠されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と消防団との総合避難訓練を実施しており、夜間は併設施設と携帯電話での連携もできている。夜間対応の避難訓練の予定も立てられている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表による水分・食事量のチェックを行うことで、利用者一人ひとりの状態把握がよりできるようになった。併設施設の栄養士との連携もあり、利用者の状態に応じた支援がなされている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには行事の写真や季節の花などが飾られ季節感あふれる工夫がなされ、利用者がゆっくりと過ごしている。また、畳スペースでは、利用者が洗濯物たたみをしたり、冬場はコタツが準備されるなど、居心地よく過ごせる配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具などが置かれ、家族より送られた写真なども飾られ、居心地よく過ごせる工夫がなされていた。		

※  は、重点項目。